

拡頭リング工法[®]

(鋼製拡径部材を用いた杭頭接合工法)

拡頭リング工法は、工場製作の拡径部材である杭頭リングを杭の施工後に設置し、内部にコンクリートを充填することによって杭頭部を一体化する杭頭剛接合工法です。杭に大きな引張軸力が作用する場合には、杭内鉄筋を併用することも出来ます。本工法は、平成19年3月に（財）日本建築総合試験所の性能証明を取得しております。また平成25年3月にNETISに登録されました(KK-120068-A)。

EP-PO-1 NSCarbolex Solution Series

特長

1. 高耐力と優れた変形性能

地震力に対して大きな耐力と高い変形性能を有する杭頭接合構造です。

2. 杭頭過密配筋の解消

杭より大径の拡頭リングを介して基礎へ定着するため過密配筋を解消できます。

3. 品質の向上と工期の短縮

定着鉄筋の現場溶接が不要なため品質が向上し、かつ現場工期の短縮も図れます。

4. 高い構造信頼性

耐力性能や構造ディテール、適用範囲等が明確であり高い構造信頼性を有しています。

仕様

適用杭種	最大杭径	外鋼管径
鋼管杭 場所打ち鋼管コンクリート杭	1800mm	杭径の1.75倍、1.5倍または1.35倍 (ただし2400mm以下)
SC杭	1200mm	杭径の1.5倍または1.35倍

